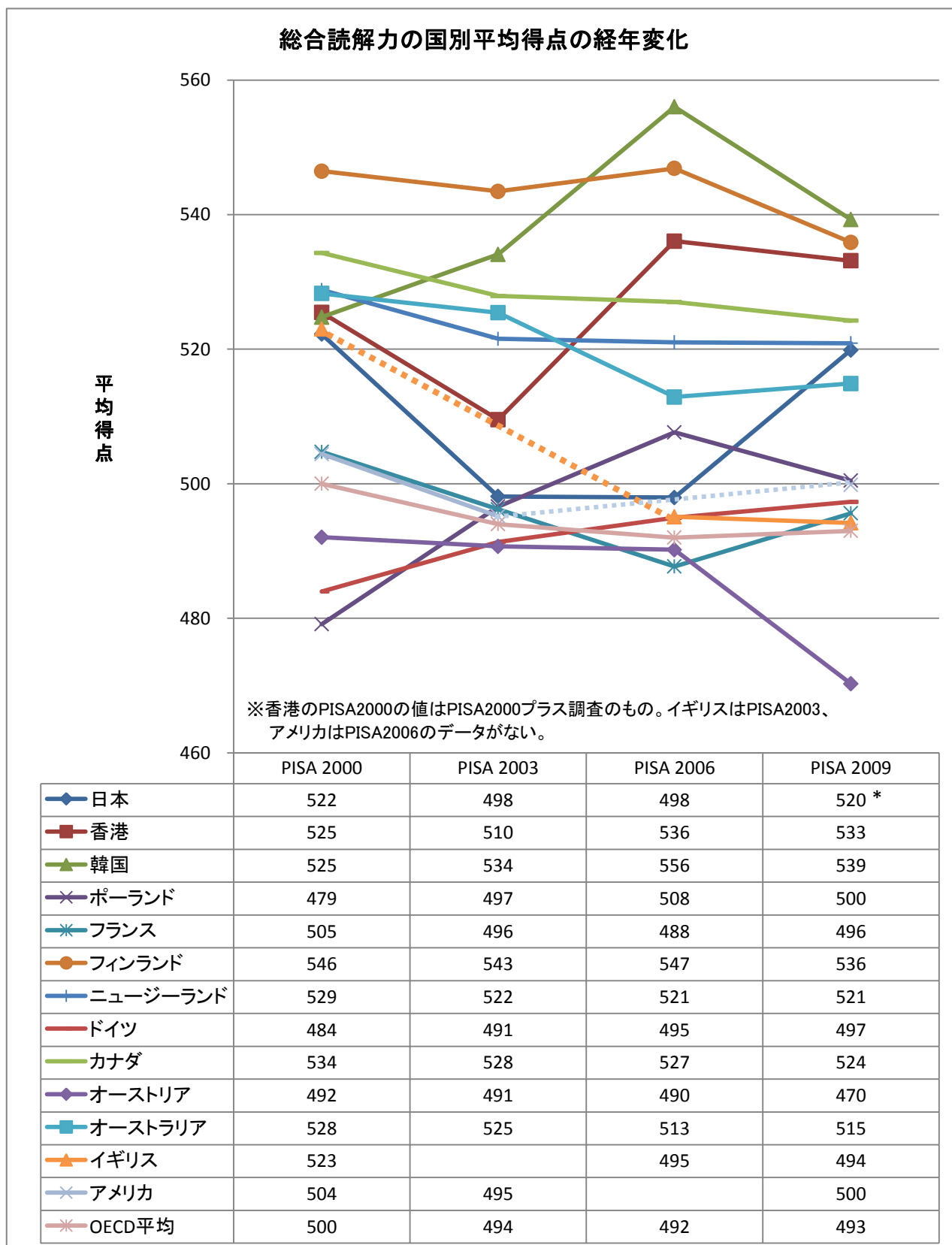


Ⅲ. 各国の平均得点の経年変化

1. 分野別平均得点の経年変化

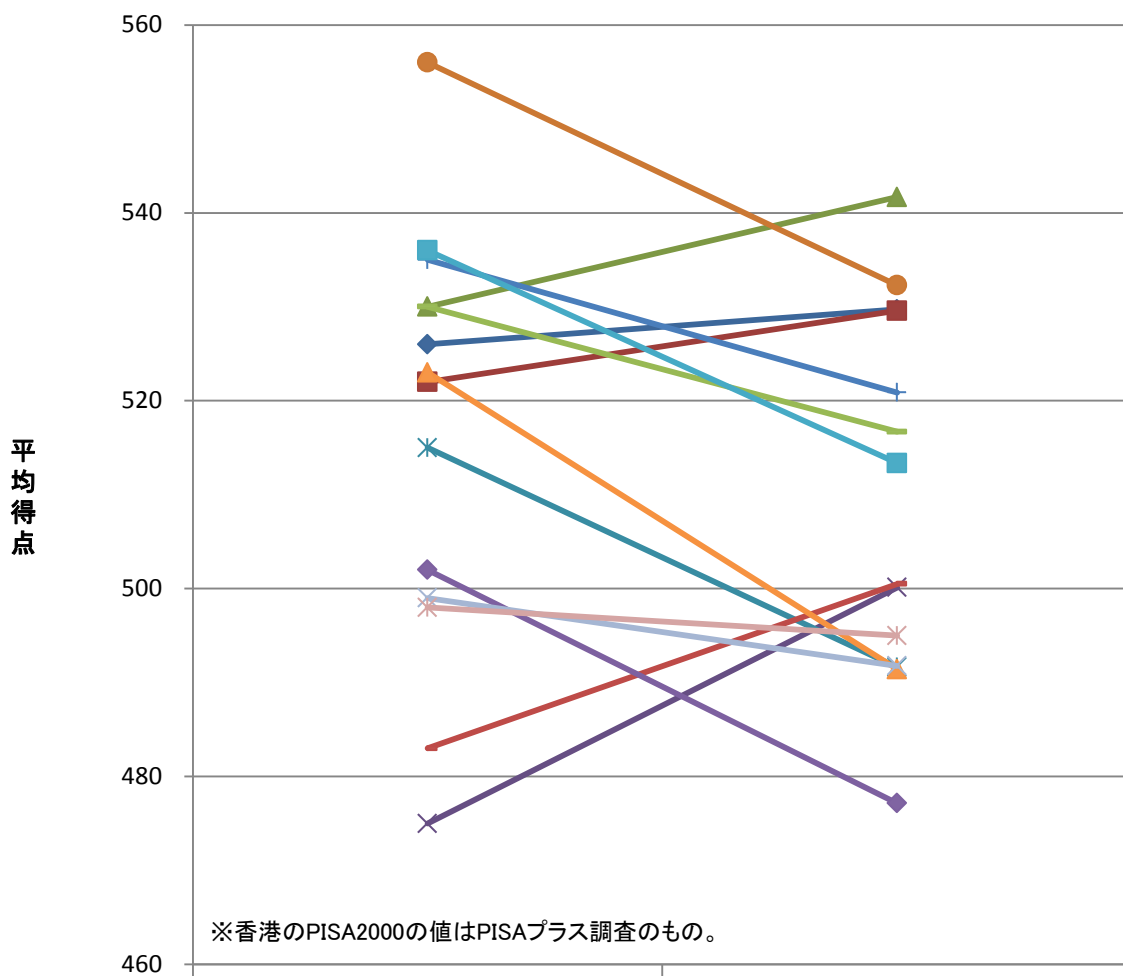
(1) 読解力



* 日本のPISA2009年読解力の平均得点は、2003年及び2006年よりも統計的に有意に高い。

① 情報へのアクセス・取り出し

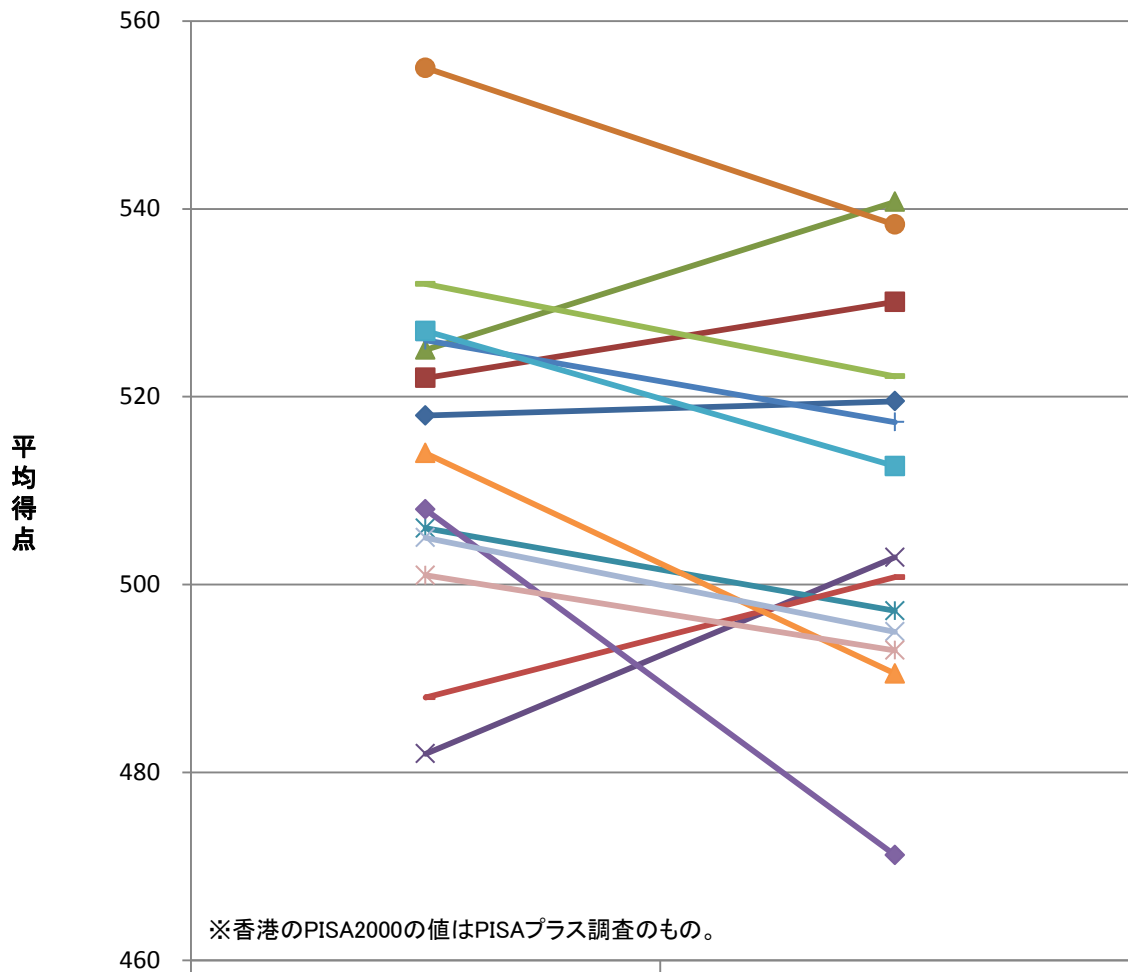
「情報へのアクセス・取り出し」の国別平均得点の経年変化



	PISA2000	PISA2009
◆ 日本	526	530
■ 香港	522	530
▲ 韓国	530	542
× ポーランド	475	500
✱ フランス	515	492
● フィンランド	556	532
+ ニューージーランド	535	521
— ドイツ	483	501
— カナダ	530	517
◆ オーストリア	502	477
■ オーストラリア	536	513
▲ イギリス	523	491
✱ アメリカ	499	492
✱ OECD平均	498	495

② 統合・解釈

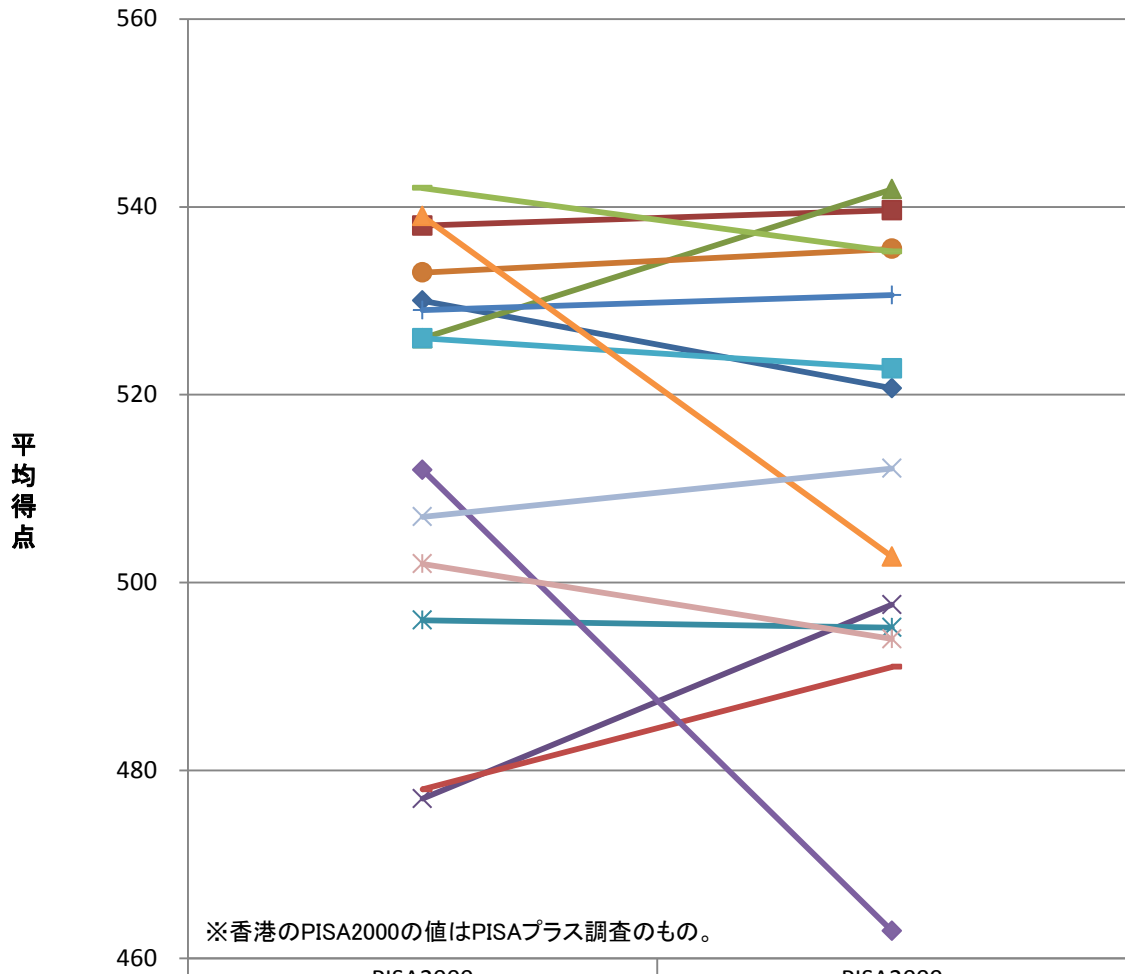
「統合・解釈」の国別平均得点の経年変化



	PISA2000	PISA2009
◆ 日本	518	520
■ 香港	522	530
▲ 韓国	525	541
× ポーランド	482	503
✱ フランス	506	497
● フィンランド	555	538
+ ニュージーランド	526	517
— ドイツ	488	501
— カナダ	532	522
◆ オーストリア	508	471
■ オーストラリア	527	513
▲ イギリス	514	491
✱ アメリカ	505	495
✱ OECD平均	501	493

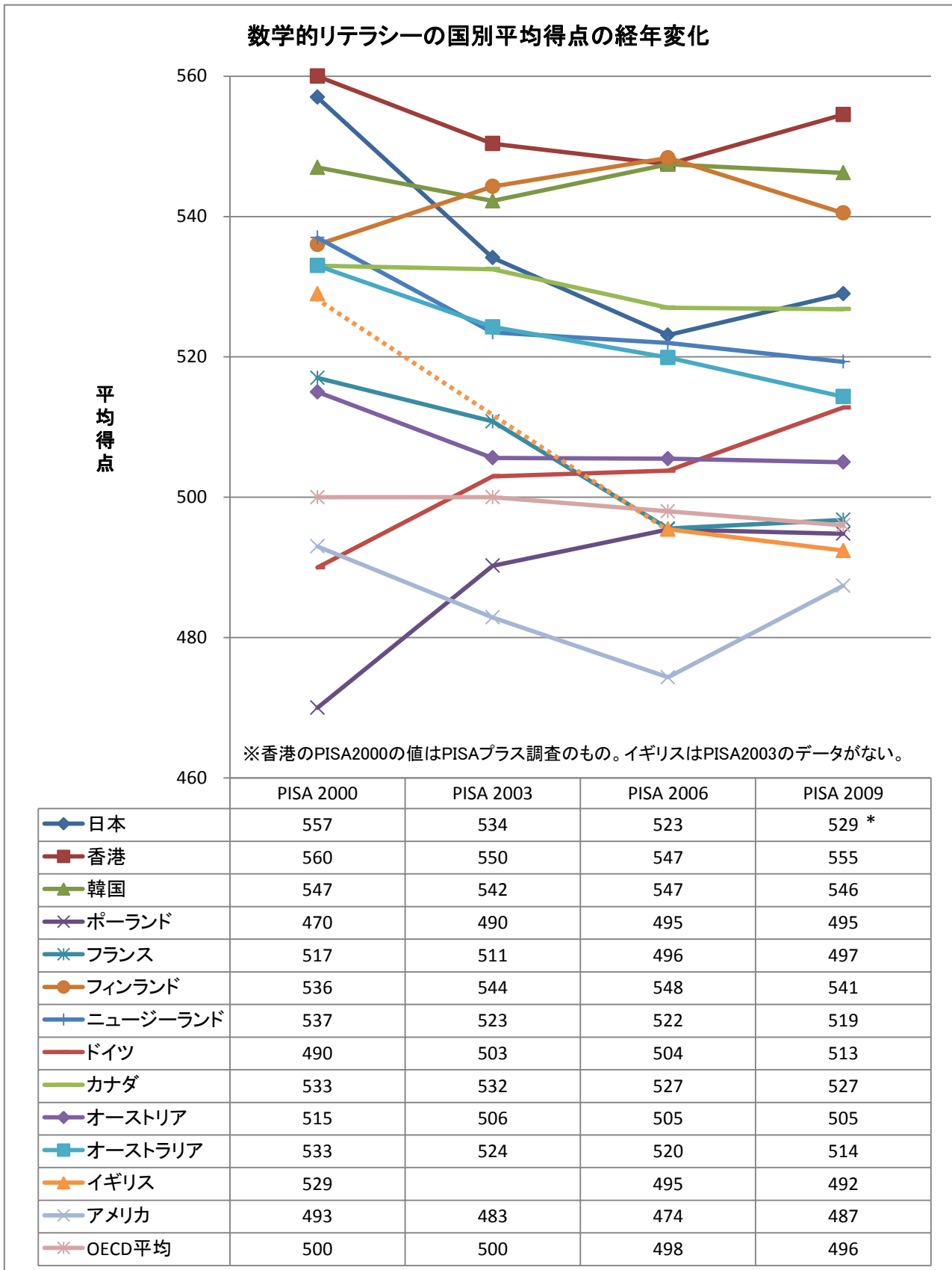
③ 熟考・評価

「熟考・評価」の国別平均得点の経年変化



	PISA2000	PISA2009
◆ 日本	530	521
■ 香港	538	540
▲ 韓国	526	542
× ポーランド	477	498
✱ フランス	496	495
● フィンランド	533	536
+ ニューージーランド	529	531
— ドイツ	478	491
— カナダ	542	535
◆ オーストリア	512	463
■ オーストラリア	526	523
▲ イギリス	539	503
× アメリカ	507	512
✱ OECD平均	502	494

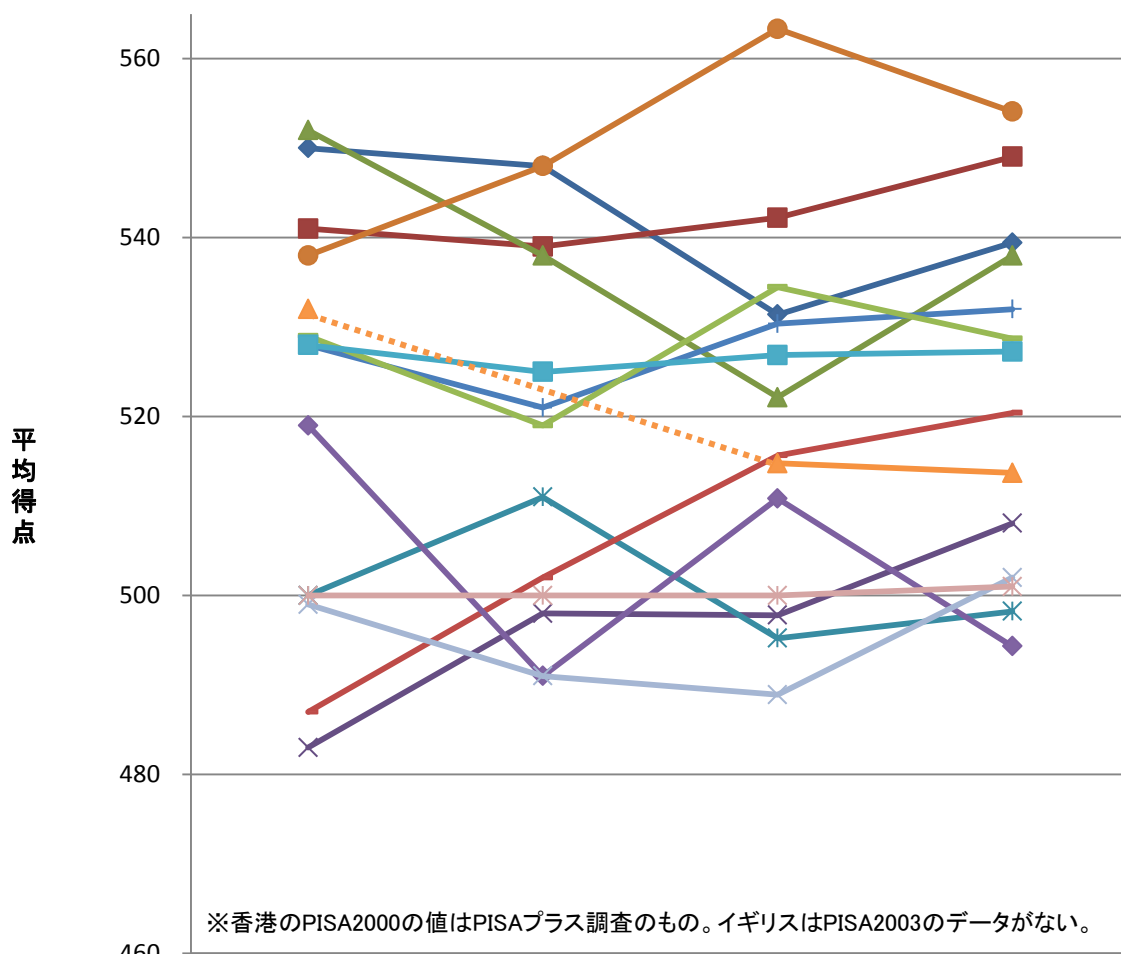
(2) 数学的リテラシー



* 日本のPISA2009年数学的リテラシーの平均得点は、2003年及び2006年と統計的な有意差はない。

(3) 科学的リテラシー

科学的リテラシーの国別平均得点の経年変化



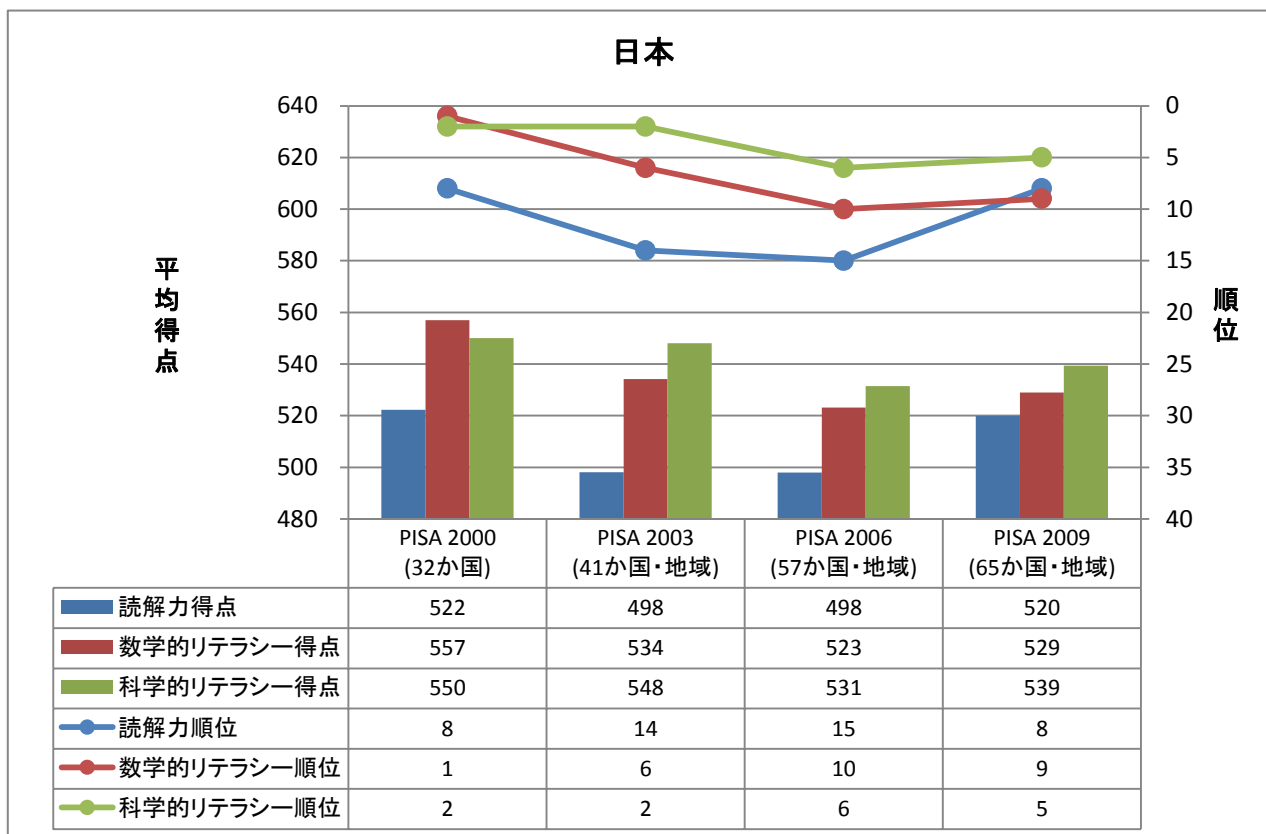
※香港のPISA2000の値はPISAプラス調査のもの。イギリスはPISA2003のデータがない。

	PISA 2000	PISA 2003	PISA 2006	PISA 2009
◆ 日本	550	548	531	539*
■ 香港	541	539	542	549
▲ 韓国	552	538	522	538
× ポーランド	483	498	498	508
✱ フランス	500	511	495	498
● フィンランド	538	548	563	554
+ ニューージーランド	528	521	530	532
— ドイツ	487	502	516	520
— カナダ	529	519	534	529
◆ オーストリア	519	491	511	494
■ オーストラリア	528	525	527	527
▲ イギリス	532		515	514
✱ アメリカ	499	491	489	502
✱ OECD平均	500	500	500	501

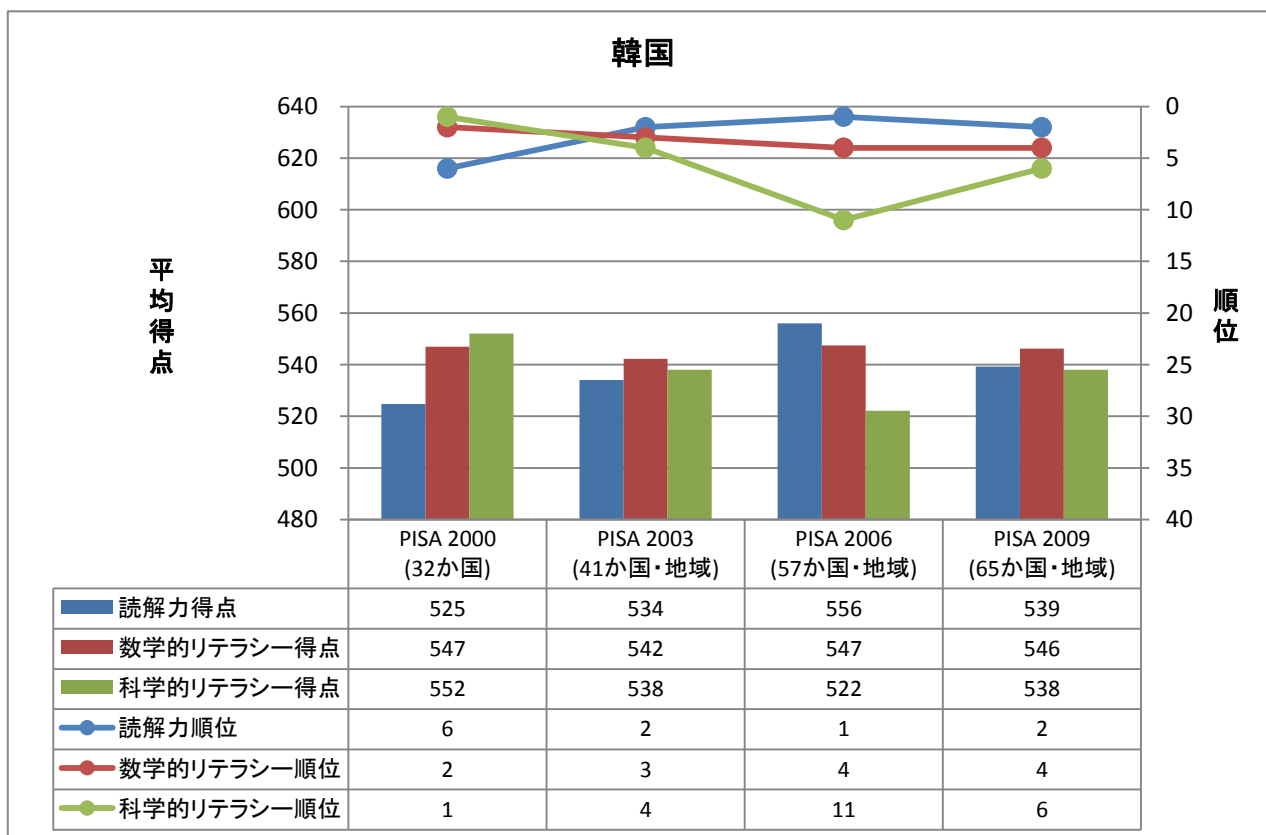
* 日本のPISA2009年科学的リテラシーの平均得点は、2006年と統計的な有意差はない。

2. 各国ごとの平均得点の経年変化

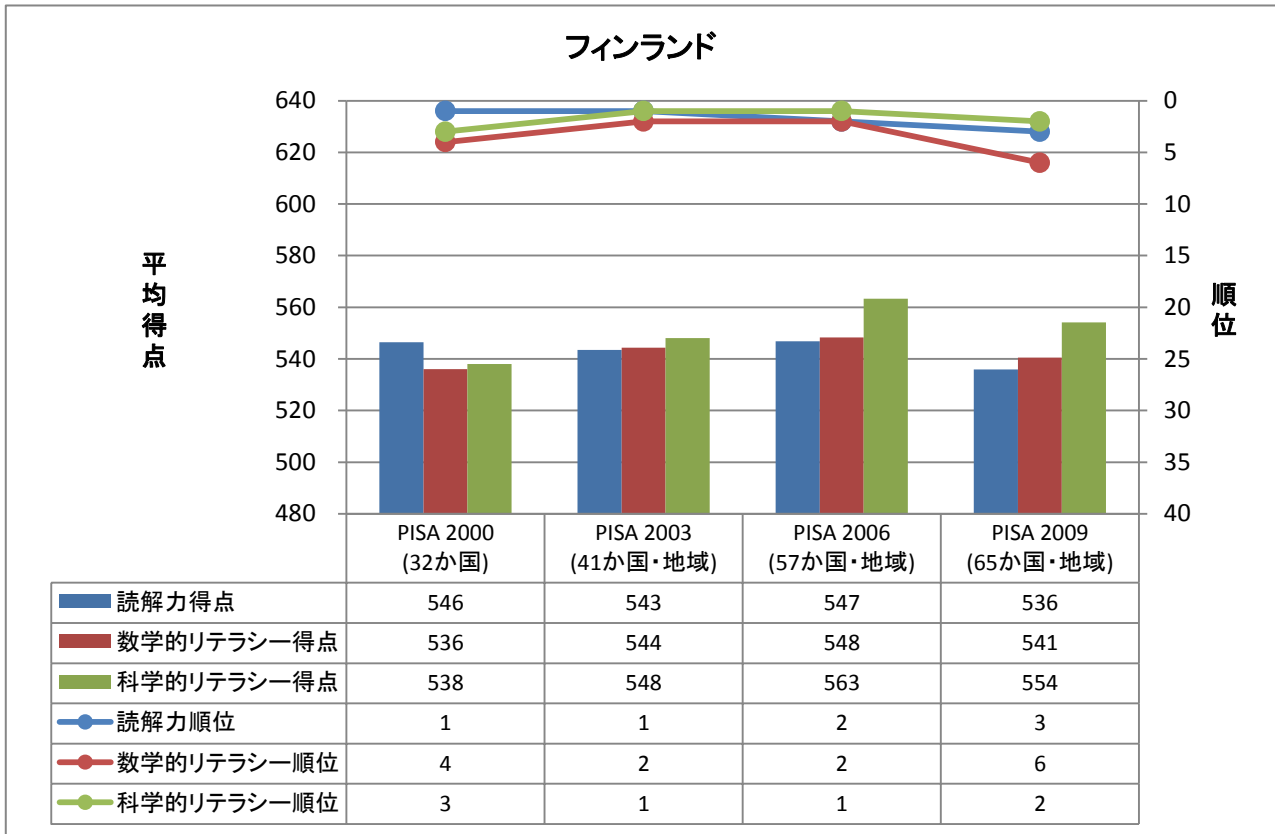
(1) 日本



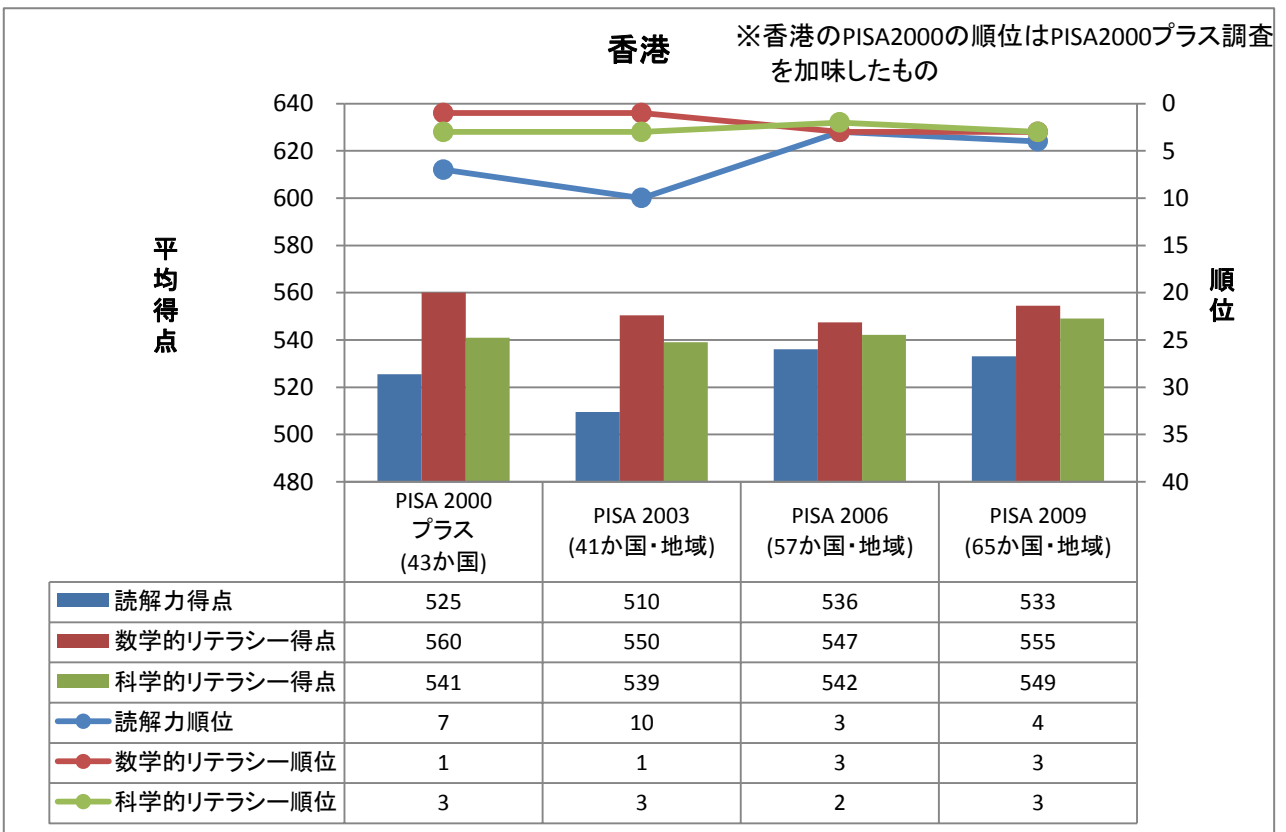
(2) 韓国



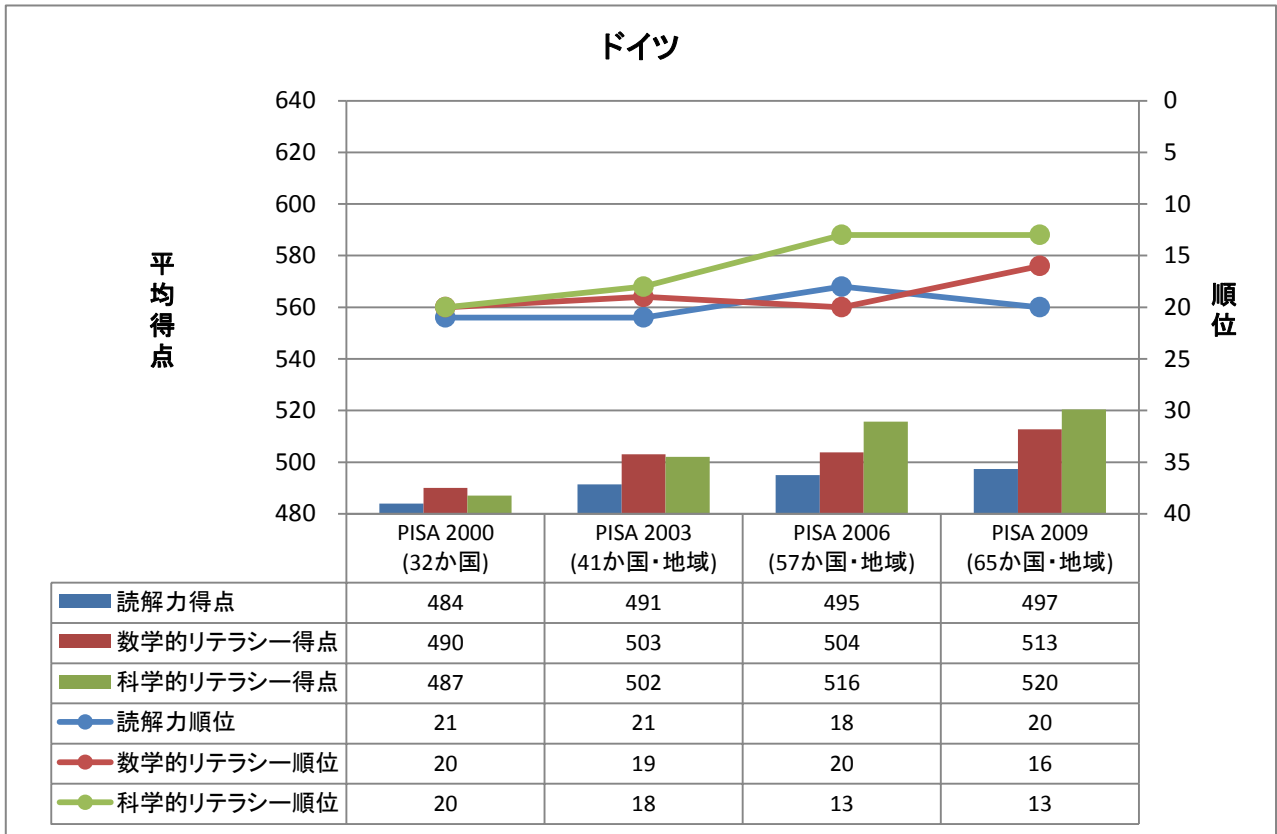
(3) フィンランド



(4) 香港



(5) ドイツ

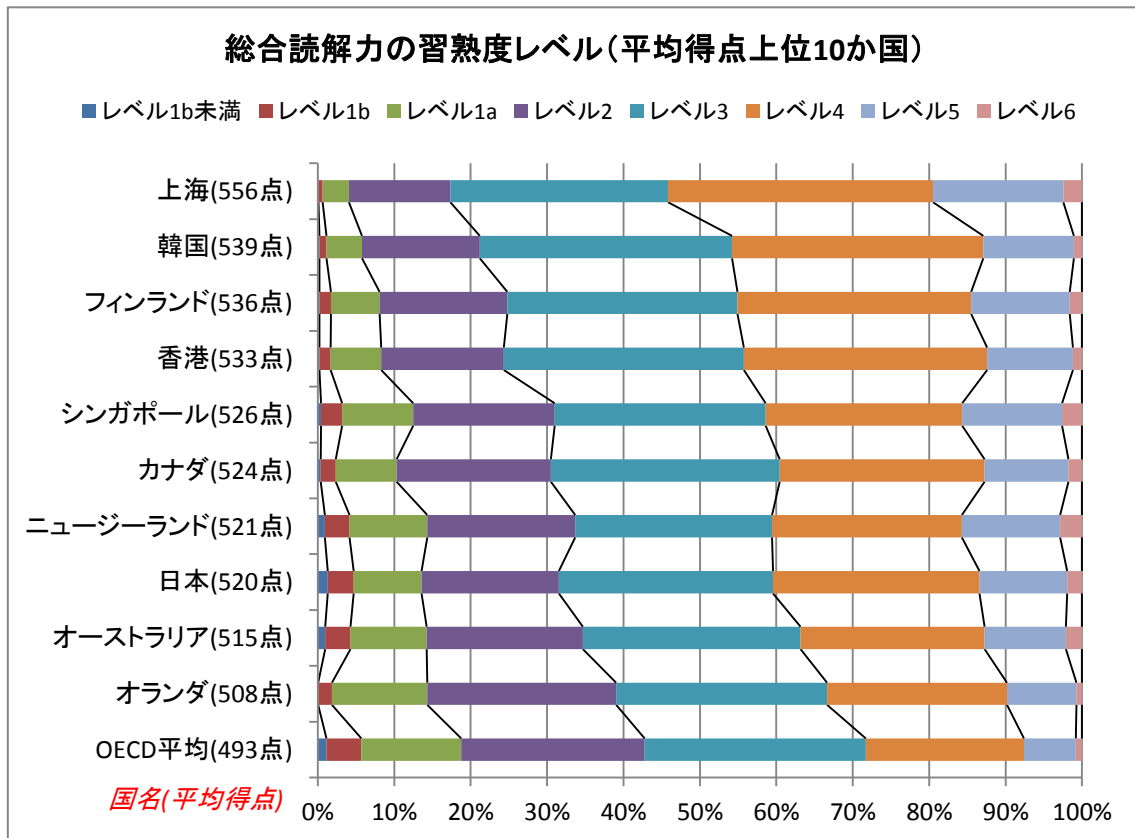


IV. 習熟度の国際比較

2009年調査の結果に基づいて、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの各分野における習熟度レベル（読解力は8段階、数学的リテラシーと科学的リテラシーは7段階）の国際比較を行う。比較対象となるのは、各分野の国別平均得点が上位10位内の国である。各習熟度レベルに含まれる生徒の割合を、各国別に図示する。国の順番は、上から平均得点の高い順に並べている。

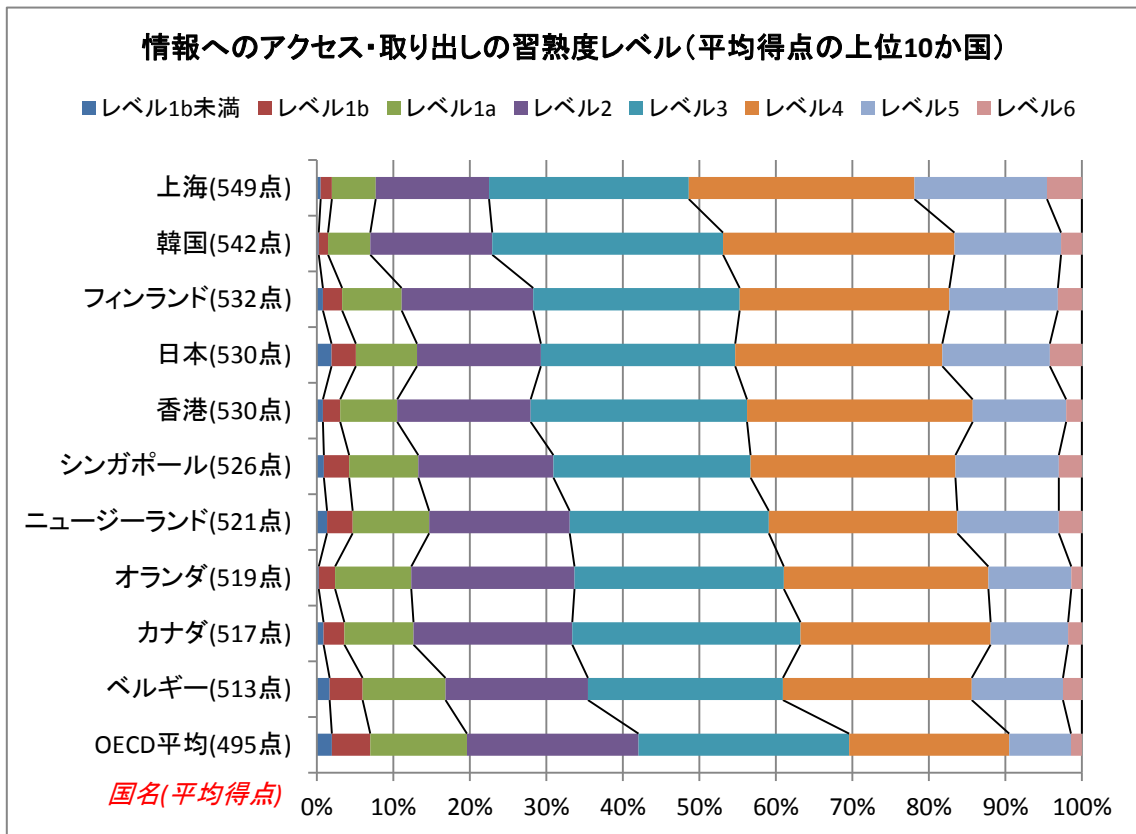
1. 読解力における習熟度レベルの分布

(1) PISA2009年調査における総合読解力



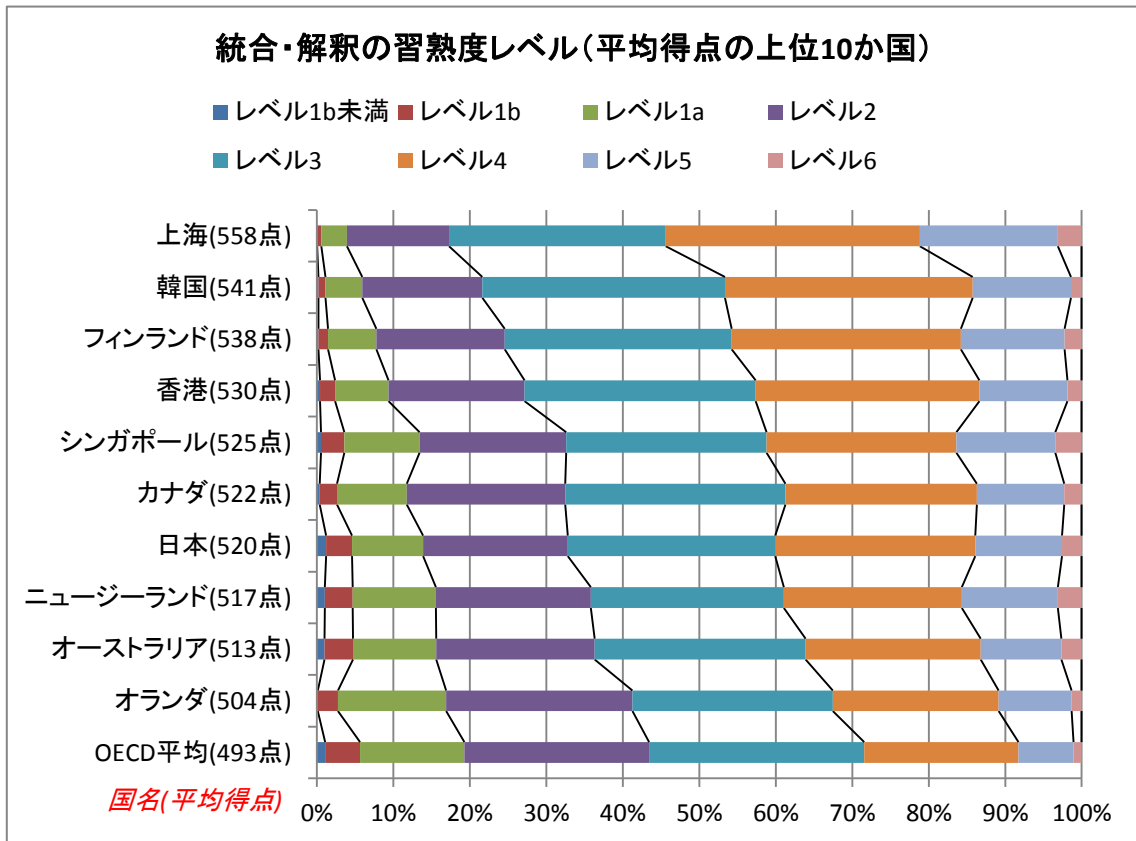
- 日本は、他の上位国と比べ、レベル6の割合が上海、ニュージーランド、オーストラリアに次いで多い、レベル5以上の割合も、上海、シンガポール、ニュージーランド、フィンランドに次いで多い。ただし、日本は、レベル1b未満の割合が、上位国の中で一番多く、レベル1b以下の割合でも、上位国の中で一番多い。

(2) 「情報へのアクセス・取り出し」



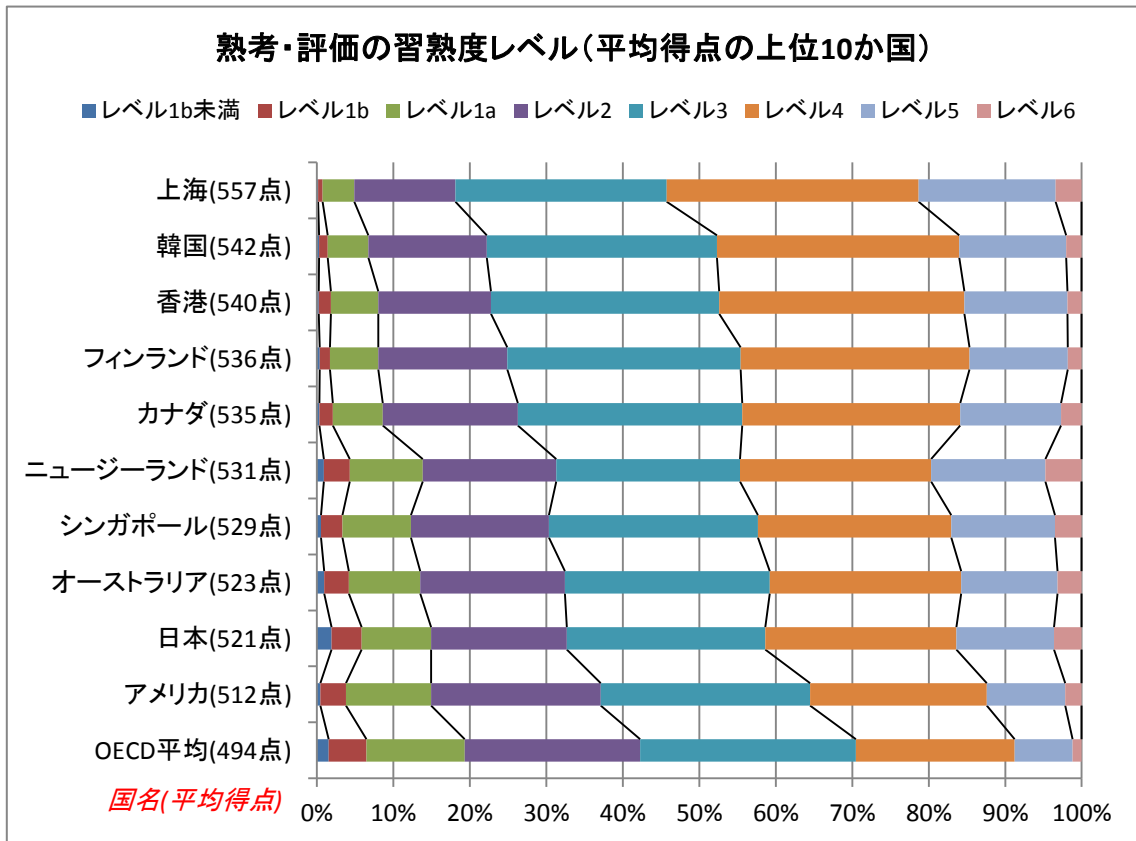
- 日本は、他の上位国と比べ、レベル6の割合が上海に次いで多く、レベル5以上の割合も上海に次いで多い。ただし、日本は、レベル1b未満の割合が上位国の中で最も多く、レベル1b以下の割合でも、上位国の中では、ベルギーに次いで二番目に多い。

(3) 「統合・解釈」



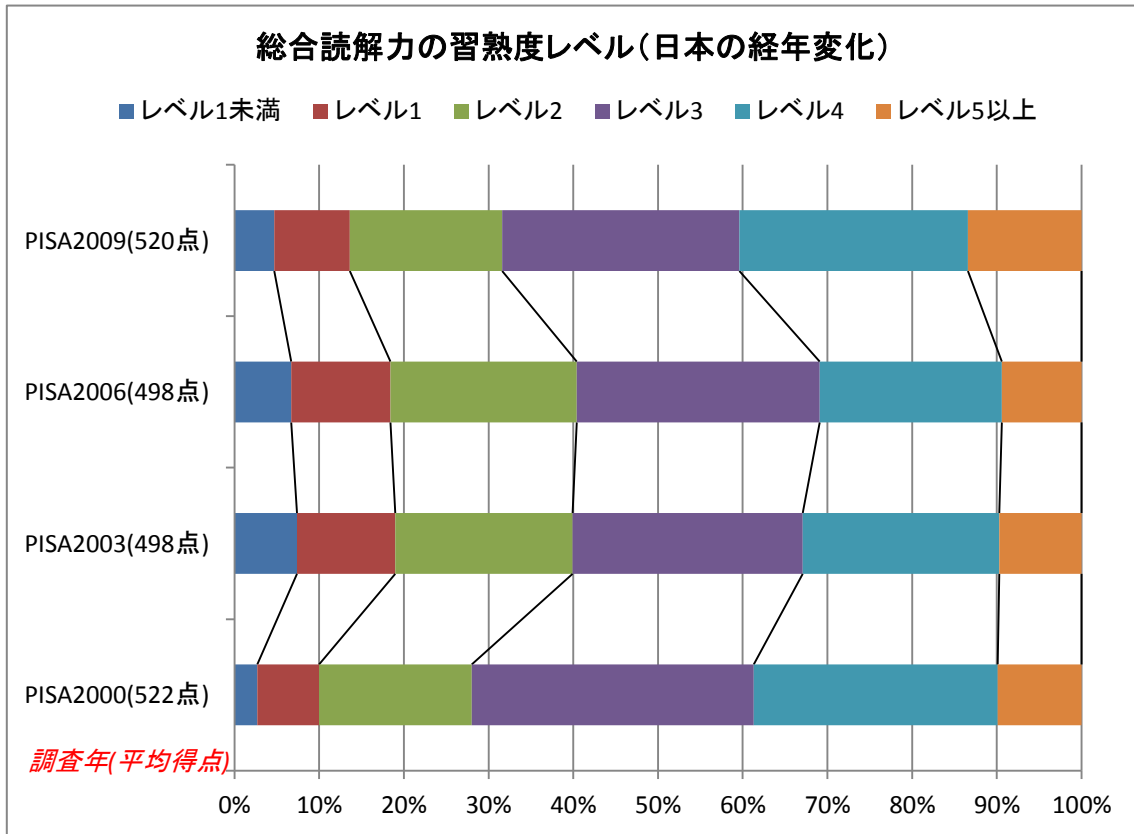
- 日本は、他の上位国と比べ、レベル6の割合が多い方から5番目、レベル5以上の割合では多い方から6番目である。ただし、日本は、上位国の中でレベル1b未満の割合が最も多く、レベル1b以下の割合でも、上位国の中では、オーストラリア、ニュージーランドに次いで三番目に多い。

(4) 「熟考・評価」



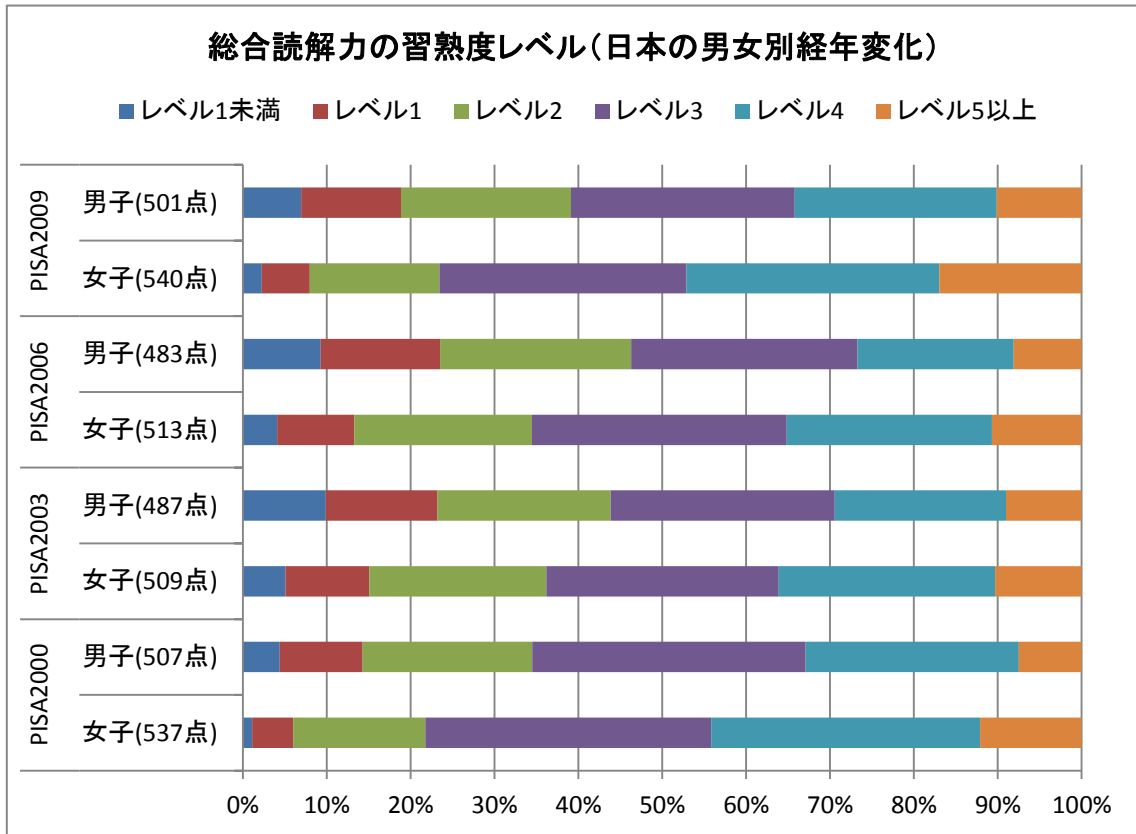
- 日本は、他の上位国と比べ、レベル6の割合がニュージーランドに次いで多く、レベル5以上の割合も上海に次いで多い。ただし、日本は、レベル1b未満の割合が上位国の中で最も多く（二番目に多いオーストラリアの2倍の割合）、レベル1b以下の割合でも、上位国の中で一番多い。

(5) 習熟度レベルから見た日本の経年変化



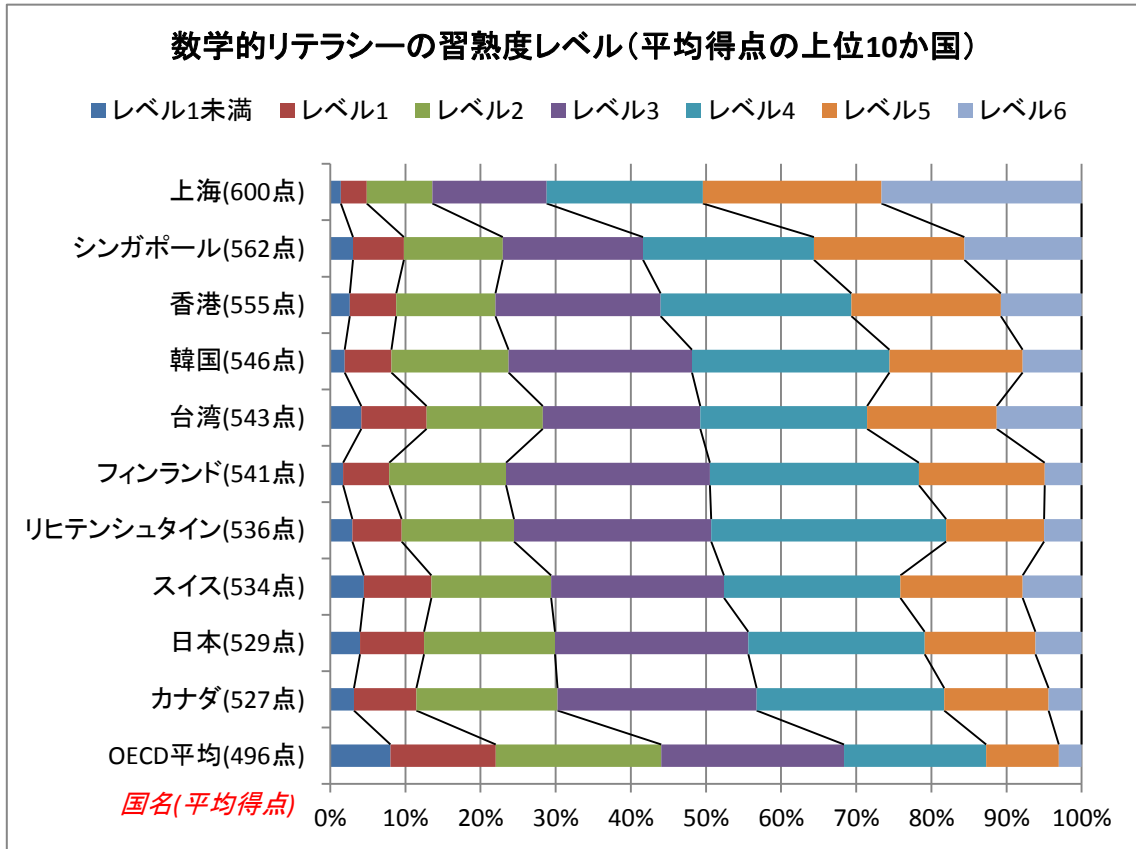
- 日本は、2000年から2006年にかけてレベル4の割合が減少していたが、2009年では2000年の程度まで増えている。
- 日本は、レベル5以上については、2000年から2006年にかけてほぼ同じ割合であったが、2009年では多くなっている。
- 日本は、レベル1未満については、2003年が最も多く、2009年では少なくなっているが、その割合は2000年よりも多い。

(6) 習熟度レベルから見た日本の男女別経年変化



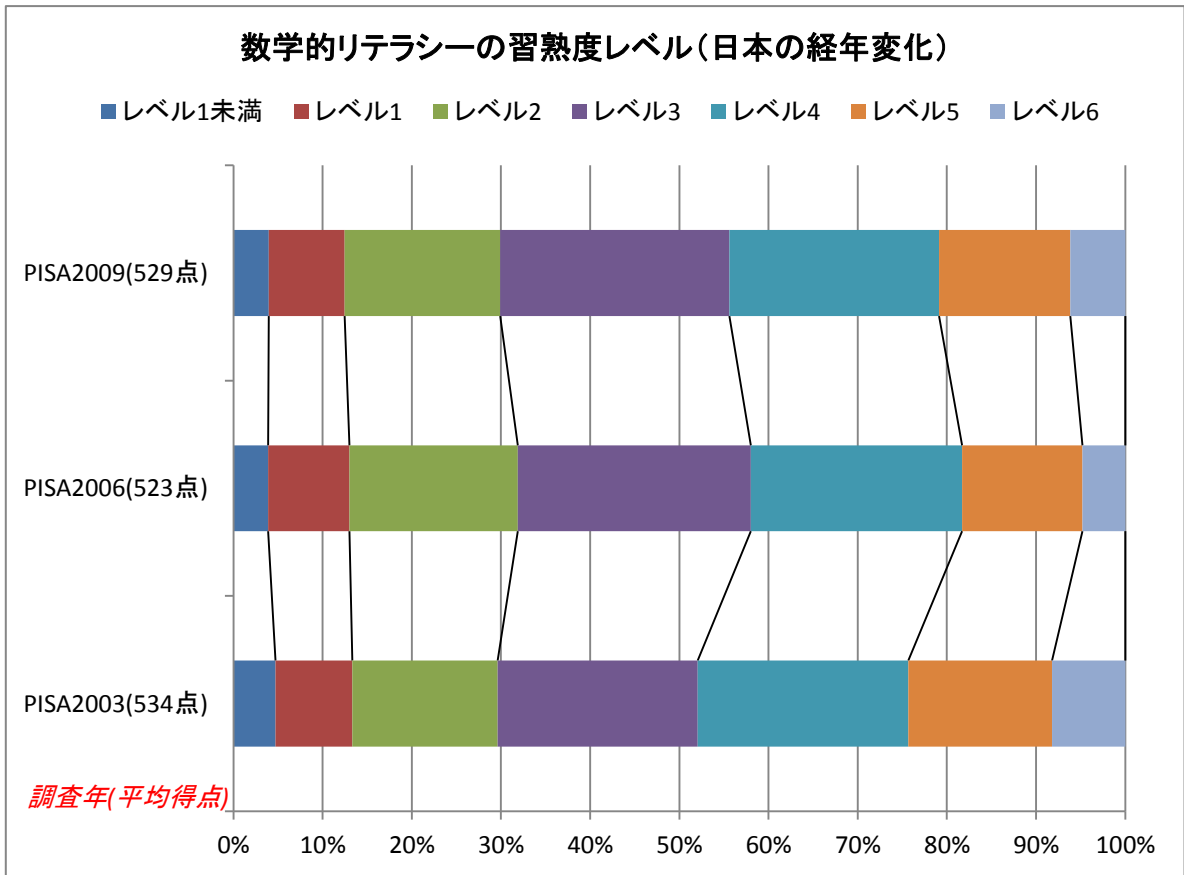
- レベル5以上に注目すると、2009年の女子の割合が最も多い。
- レベル1未満に注目すると、常に女子よりも男子の方がその割合が多く、特に2003年、2006年の男子の割合が多い。2009年では、男女ともに2006年よりもレベル1未満の割合が少なくなっているが、2000年よりも多い。

2. 数学的リテラシーの習熟度レベルの分布
 (1) PISA2009 年調査における数学的リテラシー



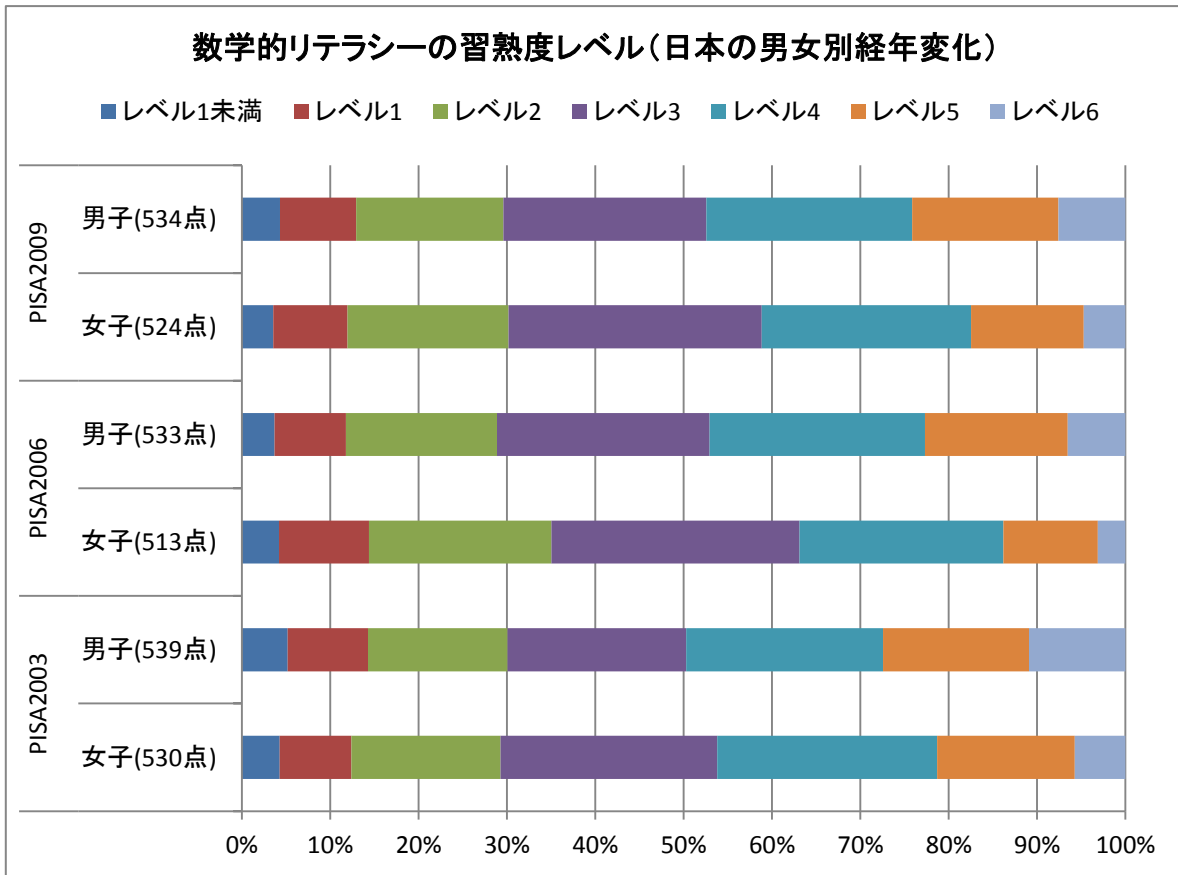
- 日本は、他の上位国と比べ、レベル6の割合で多い方から7番目、レベル5以上の割合では多い方から8番目である。また、日本は、レベル1未満の割合が、スイス、台湾に次いで多く、レベル1以下の割合でも、スイス、台湾に次いで多い。

(2) 習熟度レベルから見た日本の経年変化



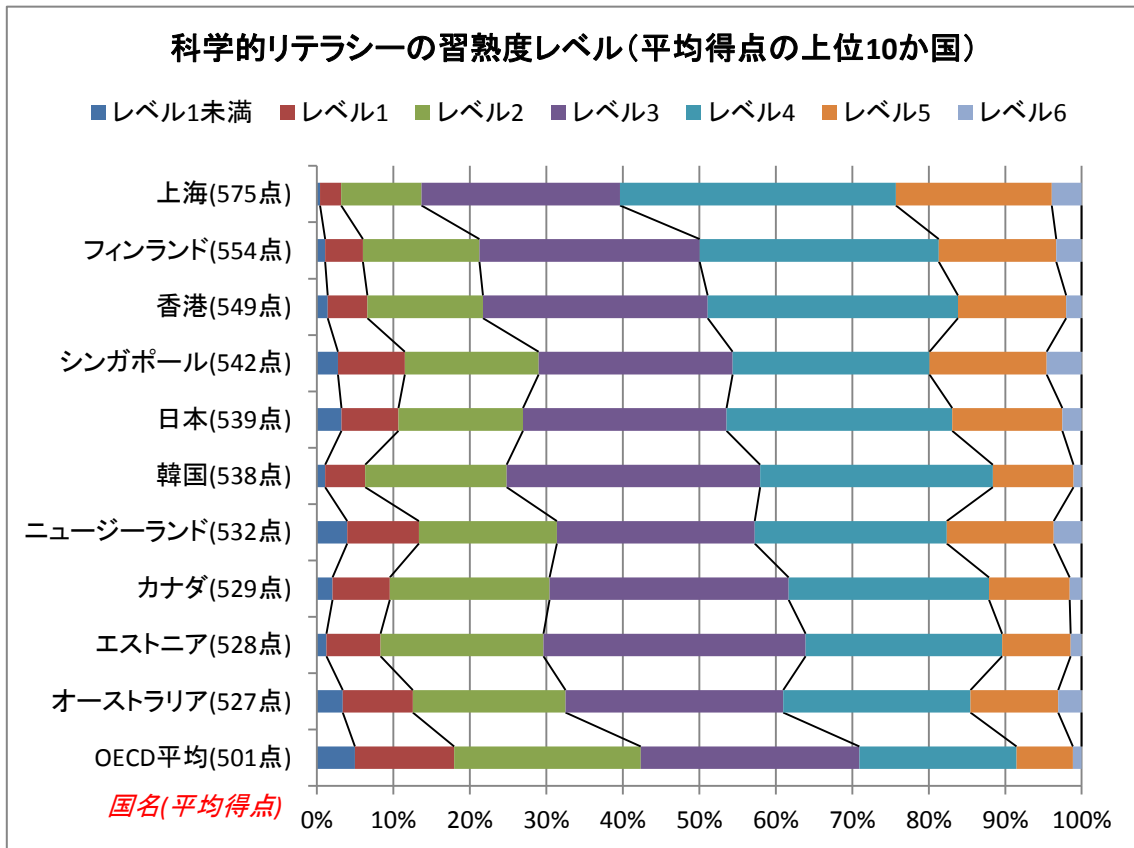
- 日本は、レベル6の割合が2003年から2006年にかけて減少したが、2006年から2009年にかけて増加している。
- 日本は、レベル1未満については、2003年が最も多く、2006年に減少し、2009年は2006年とほぼ同じである。

(3) 習熟度レベルから見た日本の男女別経年変化



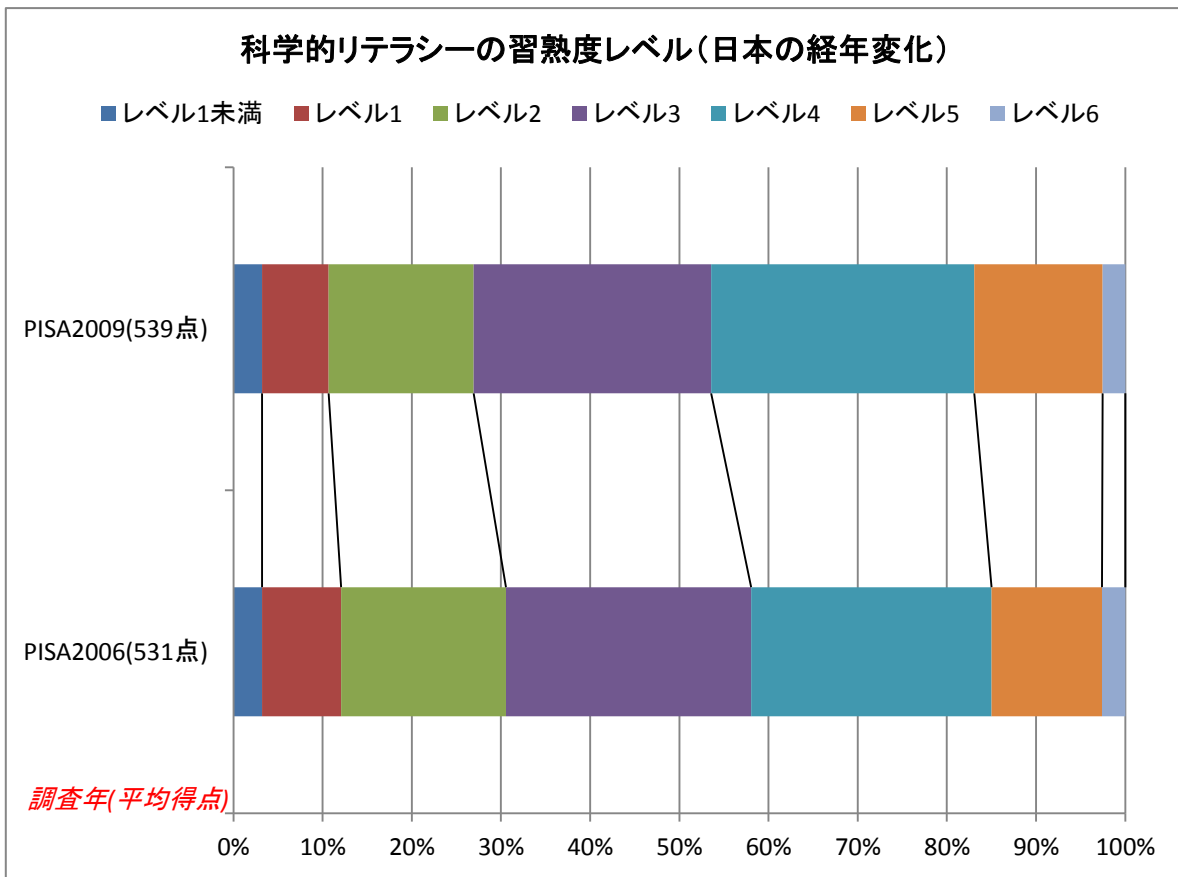
- レベル 6 に注目すると、2003 年の男子で最も割合が多い。2003 年、2006 年、2009 年ともに女子よりも男子の割合が多い。
- レベル 1 未満に注目すると、2006 年は女子の方で、2003 年と 2009 年は男子の方で割合が多い。

3. 科学的リテラシーの習熟度レベルの分布
 (1) PISA2009年調査における科学的リテラシー



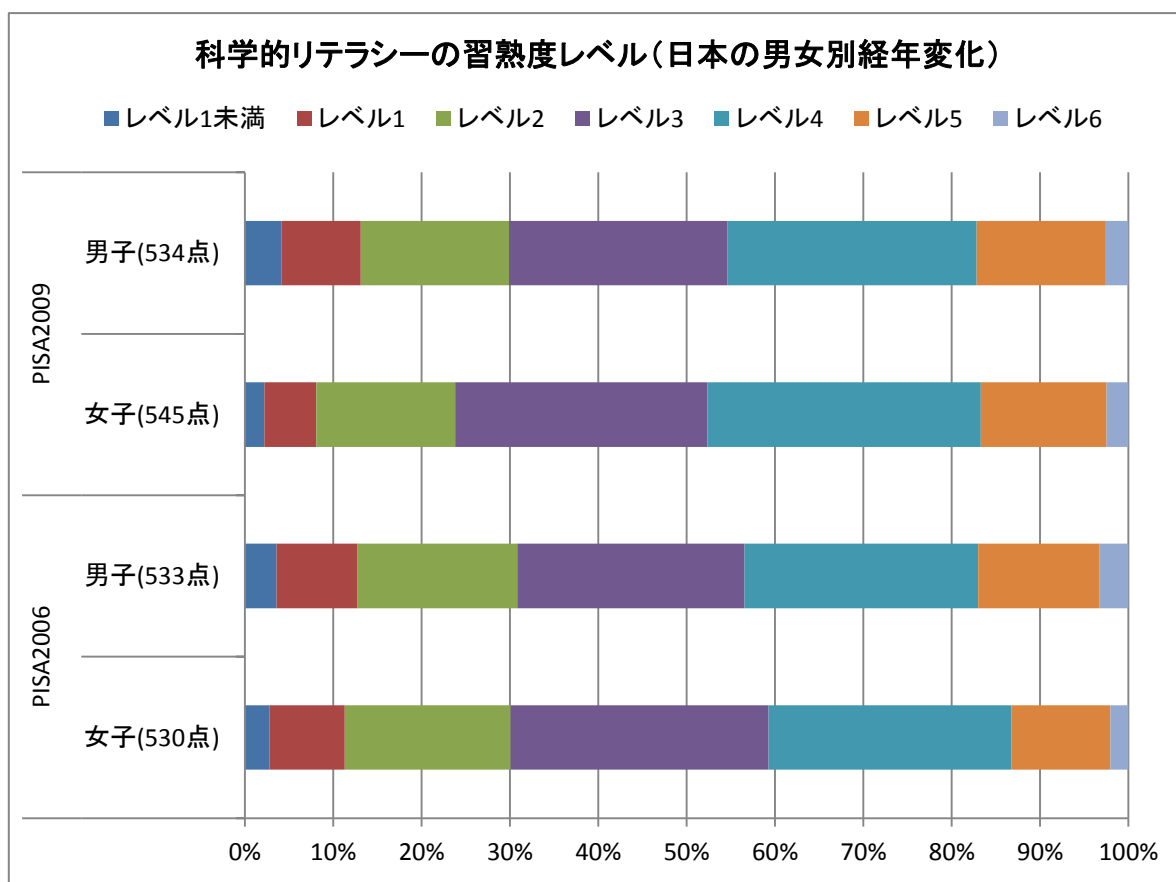
- 日本は、他の上位国と比べ、レベル6の割合が多い方から6番目、レベル5以上の割合では多い方から5番目である。また、日本は、レベル1未満の割合が、ニュージーランド、オーストラリアに次いで多く、レベル1以下の割合でも、ニュージーランド、オーストラリアに次いで多い。

(2) 習熟度レベルから見た日本の経年変化



- 日本は、レベル5、レベル4の割合が2006年から2009年にかけて増加している。
- 日本は、レベル1、レベル2、レベル3の割合が2006年から2009年にかけて減少している。

(3) 習熟度レベルから見た日本の男女別経年変化



- レベル 5 以上に注目すると、2006 年、2009 年ともに女子よりも男子の割合が多い。
- レベル 1 未満に注目すると、2006 年、2009 年ともに女子よりも男子の割合が多い。